

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●サマーシリーズの各チャンピオンが決定

9月11日(日)、今年度のサマーシリーズは対象レースがすべて終了しました。サマースプリントシリーズ(計6戦)はアイビスサマーダッシュ(GⅢ)を勝つなど19ポイントを獲得したベルカント(牝5歳/栗東・角田晃一厩舎)が2年連続で夏のスプリント女王に輝き、サマーマイルシリーズ(計3戦)は12ポイント以上を獲得した馬がいなかったためチャンピオンは「該当馬なし」という結果。サマージョッキーズシリーズ(計14戦)は41ポイントを獲得した戸崎圭太騎手(美浦・田島俊明厩舎)が初優勝を果たしました。

●川田将雅騎手がJRA通算1000勝を達成

9月11日(日)の4回阪神2日・第6レースではラヴァンドドラゴンが1着となり、同馬に騎乗した川田将雅騎手(栗東・フリー)は、史上31人目、現役では14人目となるJRA通算1000勝(8049戦目)を達成しました。デビューから12年6か月5日、30歳10か月28日での達成は、ともに武豊騎手(デビューから8年4か月23日、26歳4か月9日)に次ぐ史上2番目のスピード記録となります。

●M. デムーロ騎手がJRA年間100勝を達成

9月10日(土)の4回阪神1日・第5レースではシグルーンが1着となり、同馬に騎乗したミルコ・デムーロ騎手(栗東・フリー)は、2年連続2回目となるJRA年間100勝を達成しました。本年の年間100勝達成は、戸崎圭太騎手、クリストフ・フルメール騎手に続く3人目のこととなります。

●ジェンティルドンナが顕彰馬、橋口弘次郎元調教師が顕彰者に

平成28年度顕彰馬選定記者投票(1995年4月1日から2015年3月31日の間に競走馬登録を抹消された馬が対象)の結果、投票者数198名の $\frac{1}{4}$ (149票)以上に当たる155票(得票率78.3%)を獲得したジェンティルドンナが選定され、史上32頭目の顕彰馬となりました。またJRA内に設置された選考委員会において、橋口弘次郎元調教師が顕彰者に選定されました。

●日本馬が韓国でワン・ツー・フィニッシュ

9月11日(日)、韓国・ソウル競馬場にておこなわれたコリアC(韓国G1/ダート1800m)では、クリソライト(牡6歳/栗東・音無秀孝厩舎)が1着、クリノスターオー(牡6歳/栗東・高橋義忠厩舎)が2着となりました。なお同日のコリアスプリント(韓国G1/ダート1200m)では香港のスーパージョッキーが優勝、グレープブランデー(牡8歳/栗東・安田隆行厩舎)は3着、ミリオンヴォルツ(騾7歳/栗東・高野友和厩舎)は5着という結果でした。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●レーザーバレットがオーバルスプリント(浦和)連覇を達成

テレ玉杯オーバルスプリント(JpnⅢ、9月15日、浦和、1400m)は、中団から差を詰めた5番人気のレーザーバレット(戸崎圭太騎手、牡8歳、父ブライアンズタイム)が、逃げ粘る1番人気のソルテ(大井)をゴール前で捉えました。2番人気のニシケンモノノフは4着、3番人気のグレイスフルリーブは7着、スーサンジョイは11着でした。

●9月22日の東京盃(大井)はダノンレジェンドの連覇が濃厚

東京盃(JpnⅡ、大井、1200m)は、出遅れがない限りダノンレジェンドが最有力、ノボバカラが続き、コーリンベリー、ドリームバレンチノ、キクノストームまでが争覇圏内と考えられます。

●ホワイトフーガが登場、9月19日のレディスプレリユード(大井)

レディスプレリユード(JpnⅡ、大井、1800m)は、57^{kg}でもホワイトフーガの中心は揺るがず、以下タイニーダンサー、ブルーチップパー(大井)、タマノブリュネット、フォローハート、サンソヴールの順に有力視されます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●豪華メンバーの愛チャンピオンSはアルマンゾルが制す

8頭のG1勝ち馬が集結する豪華メンバーとなったG1愛チャンピオンS(芝10⁰⁰m)が9月10日、アイルランドのレパーズタウン競馬場で行われ、フランスのアルマンゾル(牡3歳、父ウートンバセット)が直線で外から鮮やかに差し切って優勝しました。2着に昨年のブリーダーズCターフの勝ち馬ファウンド。勝ったアルマンゾルは、これが今年6月の仏ダービー(芝2100m)に続く2つ目のG1制覇。次走候補には凱旋門賞と英チャンピオンSがあげられています。勝利騎手はC.スミヨン、調教師はJ.C.ルジェ。

●ダービー馬マカヒキが凱旋門賞前哨戦のニエル賞に優勝

10月2日の凱旋門賞に向けた重要な前哨戦であるG2ニエル賞(芝2400m)が9月11日にフランスのシャンティイ競馬場で行われ、今年度の日本ダービー馬マカヒキが直線で鋭く伸びて優勝。凱旋門賞制覇へ向けて、大きく前進しました。日本馬のニエル賞制覇は2013年のキズナに続いて2頭目。なお、この日のシャンティイ競馬場ではニエル賞のほかにも凱旋門賞を占う芝2400mの重賞が2つ行われ、牝馬によるG1ヴェルメイユ賞は今年度の仏オークス2着馬レフトハンド、古馬のG2フォワ賞は今年度のサンクルー大賞の勝ち馬シルバークエーヴがそれぞれ優勝しました。